

カサシャミセン

岡山県：準絶滅危惧

盤殻目

Discinisca sparselineata Dall

環境省：該当なし

カサシャミセン科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、海砂採取、産地局限

分布状況

県内では倉敷市、岡山市、玉野市、瀬戸内市で見出されている。
県外では北海道、東京湾、瀬戸内海、熊本県などに分布する。

生息情報

殻径 5mm、殻は扁平な円盤状で燐酸カルシウムから成り、背腹異形、背殻外側には同心円状の成長脈を巡らし、淡黄褐色の地に茶褐色の放射状色帯を多数走らせる。肉茎は短く、腹殻で転石などに付着する。内湾の湾口や海峡部など潮通しのよい場所の岩礫地潮間帯中部～潮下帯に生息し、タイドプール内の転石の下面や大型二枚貝の殻表など平坦な基質に付着する。クロヒメガキと同所的に見られることが多い。戦後長らく記録が途絶えていたが、1995年に山口県岩国市柱島で再発見され、同県瀬戸内海西部には多産地がある。岡山県でも複数の場所で生息が確認されているものの、水質の悪化や、護岸や埋立などによる海岸岩礫地の破壊が進行すれば危機的状況に陥る恐れも考えられる。

(福田 宏)



カブトガニ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

カブトガニ目

Tachypleus tridentatus (Leach)

環境省：絶滅危惧Ⅰ類

カブトガニ科

選定理由

生息環境の悪化に伴い、生息地が局限され、生息数も非常に少ない。絶滅が危惧される。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁

分布状況

日本では瀬戸内海、九州北部に分布するが、沿岸開発などにより生息地は分断され、現存する生息地は僅かである。国外にも分布し、日本の生息地は北限に当たる。

岡山県では笠岡湾が生息地として知られるが、干拓事業により生息環境が悪化し、一時、ほとんど姿が見られなくなったが、幼生放流などの保護の取り組みにより、改善しつつある。

生息情報

体長は雄が約 500mm、雌が約 600mm。その姿形は、約 2 億年前からほとんど変わっていないため、「生きている化石」といわれる。干潟の出現する内湾を主な生息地とし、ゴカイ類、貝類等を捕食する。産卵期は 6 月から 9 月で、砂中に穴を掘って行う。

特記事項

文化財保護法により「カブトガニ繁殖地（笠岡市神島水道）」が天然記念物に指定されている。

分布情報が不足するため、分布情報図は非公開とする。

(野嶋宏一、惣路紀通)



撮影：惣路 紀通

